

資料館 だより

Miyako
Kitakamisanchi
Museum of Folklore

No.32

宮古市北上山地民俗資料館

〒028-2302 岩手県宮古市川井 2-187-1
TEL. 0193-76-2167 FAX. 0193-76-2933
<http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp>
令和 8 (2026) 年 3 月 31 日発行

◆第6回「小国分館水車の畑まつり」開催

10 月 12 日、あいにくの雨天となりましたが、無事に「小国分館水車の畑まつり」を開催することが出来ました。

このイベントは、小国分館で所蔵している宮古市収集の有形民俗資料の公開を目的に開催しています。イベントの開催には、地元の皆様や当館のボランティア団体「小国分館友の会」の皆様にご多大なるご協力をいただいております。

今回の内容は、かわい元気社の皆さんにご協力いただいたの刃物研ぎコーナー、鈴久名こだま会の神楽栄子さんを講師にお願いした郷土食「豆すつとぎ」作りの実演、小国分館友の会の皆さんによる水車の稼働や昔の道具を使った実演や体験コーナー、収納庫にある民具の解説会、地元の里の駅おぐにと道の駅やまびこ館からの出店、鈴久名こだま会にご協力いただいたのおふるまい、そして当館の体験メニューや館内クイズ&スタンプラリーと盛りだくさんの内容で行うことができました。

その中でも昔の道具を使った実演と体験コーナーでは、昨年度に引き続き、稲の脱穀作業に使われる[足踏み脱穀機]や[千歯こき]、[唐箕]等のほかに、足踏みペダルを駆動してワラに撚りをかけて縄を作る[縄ない機]も来場者の皆様に見学していただくことが出来ました。

小国分館友の会の皆さんがこの[縄ない機]を事前にメンテナンスしたところ、ワラを差し込むラッパ状の差し口が片方狭まり、うまくワラを引っ張っていきえず、撚りがかからないという原因を突き止めることができました。

当日は足踏みペダルを駆動させることができたので、来場者の皆様に、差し口からワラが回転しながら進んでいく様子や縄がドラムに巻き取られる流れなど、[縄ない機]の仕組みを知ってもらうことができたと思います。

今回新たなコーナーの旧体育館での解説会では、昨年度より見学できる範囲を広げ、小国分館友の会が解説を行いました。参加者の皆さんと一緒にいろいろな民具を見て回り、質問も出て大変盛り上がりしました。

来場者からのアンケートには、「説明と展示がわかりやすく楽しめた。地域の方の説明もよかった。」「普段目に触れる機会がない貴重な民俗資料をクイズと一体で見学することでより深く知ることができた。」などの感想が寄せられました。ご来場の皆様には楽しんで見学していただけたのではないかと思います。



旧体育館で所蔵資料の解説を行う様子



昔の道具を使った稲の脱穀作業体験の様子

◆第6回「小国分館神楽共演会」開催

6月29日、第6回小国分館神楽共演会を開催しました。末角神楽保存会の打ち鳴らしに始まり、「御神楽」「翁」、そして江繫早池峰神楽保存会の「三番叟」「翁」、休憩を挟んでゲストの飯豊神楽保存会の皆さんによる「岩戸舞」「稲田姫舞」、末角神楽の「清剣舞」、江繫早池峰神楽の「庭雀」と続き末角神楽の「権現舞」で締めくくられました。

今回も天候に恵まれ、出演者の熱演に会場からは大きな拍手が送られました。来場者からは「暑い中、ご苦勞様でした。普段見ている神楽とは異なった神楽を見させていただきました。ありがとうございます」「このような活



末角神楽保存会「翁舞」

動はとても良いと思います。次の世代にも受け継がれていきますよう」と感想がありました。また、やまびこ館の協力で、郷土食「田楽豆腐」の試食も行いました。

年々、暑さが増す中ですが、会の開催や運営には川井地域の皆さんをはじめ両保存会、そして小国分館友の会の皆さんに多大なるご協力をいただきました。皆様のご協力なくしては開催できないイベントです。この場をお借りして深く感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

また、ゲストの飯豊神楽保存会の皆様、ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。



江繫早池峰神楽保存会「庭雀」

◆第28回企画展開催 10/1~12/28

「伝えたい昔の技～体験型の博物館をめざして～」と題し、当館が行っている昔の道具を使った体験や、昔の技術で小物づくり体験のメニューを紹介しました。昔の道具を観察したり、手に取ってみることで、作りや、仕組みを理解してもらおうと体験用の道具も用意しました。会期中には、石臼を使ってソバをひいてふるいにかけて粉にする一連の流れを、川井小学校の3年生が体験しました。この体験には門馬地区そば切り伝承の会と小国分館友の会の皆さんにご協力をいただき、実施することができました。



石臼体験の様子（川井小学校3年生の皆さんと

◆ボランティア研修会開催

当館にはイベントや体験学習などにご協力いただいているボランティア団体「小国分館友の会」があります。その研修会として、7月10日に奥州市「えさし郷土文化館」と「歴史公園えさし藤原の郷」を見学し、それぞれの活動を学びました。職員の方やガイドの方に丁寧な案内と説明をしていただき、参加者からのアンケートでは、「とても楽しく巡ることが出来ました。」「詳しい説明をしていただき、よくわかりました。」などの感想が寄せられ、大変充実した時間を過ごすことができました。



ボランティア研修会「えさし郷土文化館」見学の様子

◆伝統的食文化伝承活動講座を開催

「そば作り体験教室」全4回

伝統的食文化伝承活動講座として、門馬地域の方々から区界の畑で、ソバの種まき・刈り取り・脱穀・そして手打ちそばまで教わる全4回の体験講座を開催しました。第1回目(7月)の「種まき」体験は、残念ながら雨天のため延期となりました。

第2回目(9月)は天気恵まれ快晴。ほとんどの人が初めてのそば刈り体験でした。川井小学校の皆さんと一緒に行いました。[鎌]を手に、倒れているソバは起こしながら手前に引くように刈る事を教わりながら、丁寧に刈り取り作業を行いました。刈り取ったソバは1束1束に束ねて、それをまとめて立て、「しま」にして乾燥させます。



そば刈り体験の様子

第3回目(10月)は、脱穀作業です。地元では「ソバ打

ち」といいます。「しま」にして乾燥させたソバの束を板にたたきつけて実を落とし、ふるいにかけて後[唐箕]にかけて選別します。穂に残った実は[まどり]で数回にわたり打ち落とします。実を落とした後のソバの茎は[やだ切り]で細かく刻んだら畑に散らして肥料にします。参加者は、色々な道具を使いながら、脱穀作業に汗を流しました。

第4回目(12月)は、いよいよ「そば切り体験」です。地元では「手打ちそば」のことを「そば切り」と呼びます。「門馬地域そば切り伝承の会」の皆さんから、「打つ、のす、切る」のポイントを教わり、「そば切り」の奥深さを体感しました。試食では、色も濃く蕎麦の良い香りを感じながらとても美味しい蕎麦をいただきました。

今回初めて、ソバの刈り取り、脱穀など一連の作業を体験する取り組みを企画しました。門馬地域の皆さんにご協力をいただき、



とても貴重な体験をすることが出来ました。そば切り体験の様子

「豆すつとぎ」の作り方実演(10月12日)

「小国分館水車の畑まつり」の開催にあたり、郷土食コーナーでは、「豆すつとぎ」の実演が行われました。講師は、鈴久名こだま会の神楽栄子さんです。

参加者の皆さんは、神楽さんが開始の時間に合わせて予め煮ておいた青豆を餅つき機に入れて搗き、砂糖、塩、米粉を豆の煮汁と一緒に混ぜ合わせて生地がまとめるまでを見学しました。その後、形を整えて切り、パック詰めまでを皆さんに作業していただき、会場のみなさんにできたての豆すつとぎを振舞いました。



「豆すつとぎ」作りの様子

「玉味噌を味わう会」(3月25日)

一昨年と昨年と続けて、昔ながらの味噌づくりに挑戦しました。講師は映画「タイムグラバあちゃん」向田マサヨさんの味噌づくりを伝承しているフィールド・ノート山代陽子さんです。

今回は一昨年に仕込んだ味噌が2年間熟成され、とうとう食べられる時期になりましたので、出来上がった味噌で、味噌おにぎりや味噌汁などを作り味わう会を開催しました。参加者は、山代さんから玉味噌についての説明を聞いたり、一緒に料理しながらレシピを教わりました。



「味噌おにぎり」を作っている様子

◆ペットボトルで風車を作ろう(8月7日)

小国分館友の会の古館徳雄さんを講師に迎え、夏の工作教室を開催しました。

参加者は講師から、風車が回転することで、その振動や音がモグラを驚かせて畑や花壇から遠ざける効果や鳥よけ効果、シカなど動物よけの効果があるという事を教わりました。参加した子どもたちは、風車が良く回る仕組みや作り方の工夫なども教わり、話を真剣に聞きながら、手先を器用に使い集中して作っていました。



「夏の工作教室」の様子

完成すると少しの風でも良く回る風車に、「回ったー!」「すごーい!」と喜んでいました。

◆水引き飾りワークショップ(12月6日)

毎年「お正月飾り」作りを開催しており、今回初めて「水引き飾り」ワークショップを開催しました。講師は坂下はなこさんです。参加者の皆さんは、講師が準備くださった水引からそれぞれ好きな色を選び、1本の水引きで基本となる「あわじ結び」に挑戦しました。次に3本、5本と水引の本数を増やし「梅結び」を完成させました。参加者からは、「とっても楽しかった。心があらわれるようです。」や「綺麗に水引きを平らにするのが難しかったけれど、やりがいがあり、楽しかった。」と感想がありました。

お正月飾りには欠かせない「縁起物」の水引き飾りは、とても美しく、自分で好きな色や結び方で小物づくりを楽しめるという魅力を感じました。



「梅結び」を作っている様子

◆お正月飾りを作ろう◆もちつき体験

12月14日、お正月に年神様を迎えるために飾る「年縄」の作り方を小国分館友の会の古館徳雄さんから教わりました。縄をない、マツ、昆布、煮干し、幣束をつけて1年の「家内安全・無病息災・五穀豊穰」を願いこめて作りました。そのほかに玄関に飾る「しめ縄飾り」を扇や水引きなどを飾り付け、「午」の繭玉人形も作り、可愛らしく華やかなお飾りを完成させました。



「年縄」を作っている様子



「しめ縄飾り」

12月25日には、小国分館友の会の皆さんと一緒に「年縄作りともちつき体験」を行いました。

最初に参加者は、小国分館友の会の皆さんから年縄の意味や作り方を教わりました。子供たちは、「今年一年ありがとう」という気持ちと、「来年もまた良い年になりますように」という願いを込めて年縄を作りました。

次に臼と杵でもちつき体験を行いました。蒸したばかりのもち米のよい香りの中、子どもたちの元気なかけ声と共にもちつきが始まりました。搗きたてのおもちにきな粉をまぶして、皆さん一緒に試食をしました。参加者からは「初めての年縄作りで、意味や作り方、つけ方など詳しく知れたので勉強になった。もちつき体験楽しかった」と感想がありました。手作りのよさ、地域に伝わる文化や習慣を継承していく大切さを感じることができました。



餅つき体験の様子

◆布ぞうり作り方教室(3月20日)

体験学習ボランティア養成講座のひとつとして開催しました。この講座は、地元の方々を講師にお願いして平成27年度から毎年開催していたもので、現在は作り方を習い覚えた当館職員が参加者の皆さんのお手伝いをしています。

布ぞうりは、健康的でふっくらした優しい履き心地が特徴です。参加者の皆さんはそれぞれ好きな色の布を選んで、丁寧に布を組んでいき、世界に一つだけの素敵な布ぞうりを仕上げることができました。



布ぞうり作りの様子

◆昔のものの作り 全3回(5月18日、7月6日、8月24日)

昨年に続き、佐々木節子さんをカゴ作りの講師に迎え、昔の技術で小物作りをテーマに有形民俗資料[つかり]や[こだし]に見られる地域の伝統的な生活技術について体験できるものの作り講座を開催しました。

参加者は、クルミの枝から樹皮を剥ぐところから、樹皮の加工、カゴを作りと3段階に分けて作業しました。参加者は、「最初の皮剥ぎから出来て楽しかったです」、「楽しい時間でした。でも！難しいです。前回は参加しましたが初心者です。又、参加したいです」と感想がありました。



クルミの枝から樹皮を剥ぐ様子

◆砂金探し体験教室(7月26日)

今回でこの体験教室も3回目となりました。当館にはかつて使われた砂金採り用具が展示されていますが、地域には砂金にまつわる伝説や金山についての伝承も残されています。こうした内容を紹介した後で、講師の住田町教育委員会の佐々木喜之さんから砂金探しの方法やコツを教わり、実際に川で砂金探しに挑戦しました。参加した親子連れを含む13名は、砂金を見つけた人も見つけなかった人も、夢中になって楽しんで作業していました。



川で砂金を探す様子

◆森の体験学習会(5月29日、10月3日)

早池峰山の北側には、昭和23(1948)年に起こったアイオン台風による土砂災害で出現したアイオン沢があります。この付近には国の天然記念物に指定されているアカエゾマツの自生南限地があります。

今回の学習会では、三陸北部森林管理署とかわい木の博物館のご協力をいただき、普段は入ることができないルートでアイオン沢付近までの自然観察と、早池峰山北面の砂防ダムの見学をしました。



「森の体験学習会」の様子

◆「地域の魅力再発見」開催

昨年度の「門馬区域編」に続き、今年度は「川井区域編」と題して、閉伊川の中流域に位置する川内地区、箱石地区、川井地区を取り上げて3回の学習会を開催しました。

第1回目は7月19日に、地域の自然、歴史、文化について学びました。参加者は、希少樹木のクロビイタヤやハナヒョウタンボク、蛇行する閉伊川とその地形、アイオン台風の道路復旧記念碑や江戸時代の道づくりに関連した石碑、現在も利用されている風穴、河畔のヤナギ林などを見学し、それぞれの専門家から解説を受けました。参加者からは「個々のものや歴史、文化を知るにとどまらず、その地域のことが分かる事業でとても良い企画」、「普段の生活で見逃していることも多く、気付かせてもらった」などの感想が寄せられました。



第1回目・川内の地形について解説

第2回目は9月14日に「宮古街道編」と題して開催しました。川内地区と箱石地区の旧宮古街道を実際に歩き、江戸時代の道標や、市内の宮古街道で唯一現存が確認されている「早坂一里塚」などを見学しました。参加者は2泊3日で盛岡ー宮古を行き来した当時に思いを馳せながら旧街道を歩きました。



第2回目・「早坂一里塚」



第3回目・宮古街道のルートについて学ぶ講座

11月8日は、区界峠から盛岡市側の宮古街道を歩きました。これは昨年度開催した門馬区域編の参加者の、「区界峠から西側の旧街道を歩いてみたい」という要望をもとに実現しました。区界峠の山中から盛岡市築川地区へ向かう旧街道は今も残されており、参加者は実際に3時間ほどの道のりをゆっくり歩きながら、築川一里塚、飛鳥口にある道標など、街道に関する文化財について専門家から解説を受けました。

今年度、宮古街道の見学会を2回開催しましたが、どちらの日程も、旧街道をくまなく歩いてルートを確認している研究者の案内で、詳細な資料をもとに解説を受けながら見学することができました。



第3回目・宮古街道「築川一里塚」

この「地域の魅力再発見」事業は、宮古市教育委員会が作成した文化財保存活用地域計画に関連しています。この計画では、未指定文化財も含めた「地域の宝」を活用し、後世に伝え残すため、市域を9つに分けて「地域の宝マップ」を作成します。今年度は門馬区域の「宝マップ」が発行されました。当館では旧川井村と旧新里村にあたる「門馬」「川井」「小国」「新里」の4つの区域を担当し、未指定の文化財を含めた地域の歴史、自然、文化に関する地域資源を掘り起こし、記録していきます。

ミニ企画展

タイトル（会期）	内容（来場者数）
第1回 「早池峰山麓のきのこ」 ・川井生涯学習センター主担当 ・6/1～7/21	川井地域にゆかりの方8名から提供していただいた260点あまりの写真を「傘がある一木に生える」「傘がある一土に生える」「傘がない一木に生える」「傘がない一土に生える」の4つに分類して紹介。あわせてキノコについての図鑑や絵本、キノコが登場する文学作品などを紹介し、幻想的な写真に加えてキノコの不思議な世界館も表すことができた。（234人）
第2回 「夏休みワクワク昆虫展」 ・当館主担当 ・7/27～ 8/17 関連事業 7/27	元川井西小学校の校長先生で岩手虫の会の会員でもある三浦秀明さんより14箱の昆虫標本をお借りして展示。あわせて岩手虫の会会員が執筆担当している岩手日報ジュニアウィークリー「いわての虫シーズン⑦」の記事や昆虫に関する絵本や図鑑など児童、生徒向けの資料も紹介した。ほかにも借用したヘラクレスオオカブトやオオクワガタの生態も展示して来館者に喜ばれた。 関連事業の展示解説会も開催。 （来場者252人、参加者20人）
第3回 「昭和の道具～今とくらべてみると～」 ・当館主担当 ・11/22～ 12/28	ちょうど昭和100年となることを記念して開催。当館では昭和30年第頃までの生産生業用具を中心に収集しているため、昭和を象徴する道具の所蔵は少ないが、所蔵資料に加えて職員や関係者の思い出の品を持ち寄り展示資料に加えた。あわせて、「あなたにとっての昭和とは？」という問いかけをし、来館者に短冊に書いてもらい掲示するという取り組みも行い、それぞれの昭和を振り返り紹介することができた。 （来場者138人）
第4回 「川井の学校～今昔～」 ・市立図書館川井分室主担当 ・3/1～5/6 予定	現在、川井地域では1つの校舎で川井小学校と川井中学校の児童生徒が勉強している。かつては分校を含めると小学校が20校、中学校が5校という時代があった。展示では、学校の時代による移り変わりや、昔の校舎の写真のほか、校歌や記念誌などの資料も紹介。会期中には地域の方々から学校にまつわる思い出話を教えていただいたり、思い出の品が持ち寄られ、記録することができた。 （3月31日までの来場者199人）



「夏休みワクワク昆虫展」展示解説会の様子



「川井の学校～今昔～」展示の様子

◆ご協力ありがとうございました!! (50 音順)

【資料寄贈】令和7年4月1日～令和8年3月31日まで

因幡繁之様、神楽栄子様、櫻岡咲子様、佐々木美智子様、
嶋津茂子様、尻石光男様、中村文男様、中山康之様、成瀬健一様、
道又英光様、山本建夫様

◆令和7年度の入館者数(人)

一般	学生	小・中・高	団体	合計
1201	14	157	235	1607

小学校の社会科見学では、市内田老第一小、高浜小、磯鶏小、津軽石小、川井小の皆さんに見学していただき、解説や体験の対応をいたしました。

体験学習やイベント実施の様子は当館公式ホームページやフェイスブックで紹介していますので、是非ご覧ください。

北上山地民俗資料館ホームページアドレス
<http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp>



みてね♪



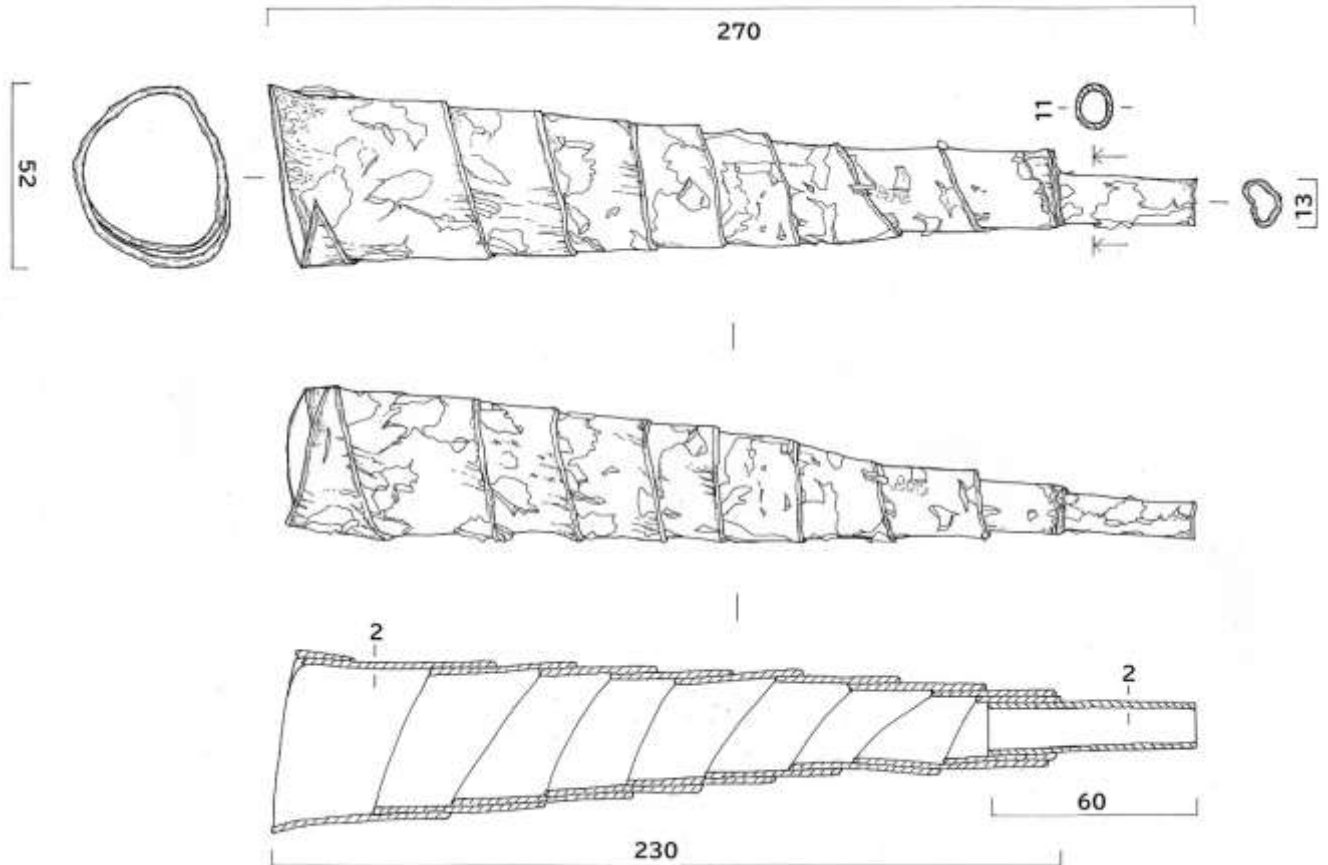
【QRコード】

(左)北上山地民俗資料館公式ホームページ

(右)北上山地民俗資料館公式フェイスブック

宮古市北上山地民俗資料館◆資料紹介 38 [ほら貝(クルミの樹皮製)]

資料名 クルミの樹皮の[ほら貝]
伝票番号 12629-6
寄贈者 工藤昭市
作図者 櫻岡咲子



クルミの樹皮をらせん状にほぐ



クルミの樹皮製[ほら貝]を吹く

オニグルミの樹皮を使って色々な道具が作られていたことは、これまでの聞き取り調査で分かっています。当館では実際に、クルミ樹皮製の、山仕事道具を背負って運んだ「つかり」を展示しています。ほかにも、「クルミの皮と枝で刀を作って、チャンバラっこをして遊んだものだ」とか、「クルミからはいだ皮で、笛を作った」というお話を伺いましたが、その「刀」も「笛」も収集された資料にはありませんでした。そのためお話を聞かせてくださった方にお願ひして、作り方を記録させていただいたのが今回紹介する「ほら貝」です。

左上の写真は、直径4〜5センチメートルほどのオニグルミの枝に、鉋(なた)を使ってらせん状に切れ込みを入れて樹皮をはいているところです。はがした樹皮を巻いて形を作り、吹き口の部分には細い枝から筒状に抜き取った樹皮を差し込み、紐で結んで固定したら完成です。左下の写真は製作者が、完成した「ほら貝」を吹いている姿です。ちなみに、当館では、今回紹介した樹皮を巻いて作ったもののほかに、木をくり抜いて作られた「ほら貝」も所蔵しています。合図に吹き鳴らしたり、鳥獣を追い払ったりして使用した筈で、貝ではありませんが「ほら貝」と呼ばれています。

資料の現物が残さなくても、地域の方の協力によって製作の工程を再現していただき、貴重な記録を残すことができました。これからも機会を逃さずに記録し、未来に伝えていけたらと考えています。

(宮古市北上山地民俗資料館 主査兼学芸員 高橋稀環子)